

AJA リテールインストーラー

リリースノート- Mac v12.4.2

重要な記載事項 - 必ずお読みください

このドライババージョンは、Mac OS X 10.9.5 (Mavericks) , OS X 10.10 (Yosemite) および OS X 10.11 (El Capitan) と互換性があります。初めて AJA 製品を使う場合は、Read Me First 書類およびユーザーマニュアルを必ず確認してください。

ソフトウェア

このインストーラーは下記のソフトウェアバージョンと互換性があります。

Adobe

- ・ Premiere Pro - CC 2015
- ・ After Effects - CC 2015
- ・ Photoshop - CC 2015
- ・ Prelude - CC 2015
- ・ Audition - CC 2015

Avid

- ・ Media Composer - 8.4, 8.5, 8.6

Apple

- ・ FCP X - 10.2.2

Telestream

- ・ Wirecast - 6.x, 7.x

その他の互換アプリケーション

- ・ <http://www.aja-jp.com/products/kona#ソフトウェア対応表>
- ・ <http://www.aja-jp.com/products/io#ソフトウェア対応表>

*その他のアプリケーションで使用するために必要な AJA ドライババージョンの詳細については各ソフトウェアメーカーにお問い合わせください。

v12.4.0 の新機能

- ・ KONA IP サポート
- ・ Adobe CC 新バージョンサポート
- ・ Avid Media Composer 8.5.x サポート
- ・ 64bit バージョンの AJA Control Room で OpenGL をサポート。これは特に高解像度でハイフレームレートのファイルのキャプチャーや再生の際に AJA Control Room のパフォーマンスを改善します。
- ・ Avid Media Composer と KONA 4 または Io 4K の組み合わせにおいてアンシラリーデータのキャプチャー機能を追加します。
- ・ AJA Control Room に OS Disk Caching のチェックボックスを追加。この機能はデフォルトでは On になっており OS Disk Caching が有効になっています。
- ・ AJA Control Room、AJA Control Panel、AJA System Test の AJA アプリケーションで、高い DPI のディスプレイにおける UI の最適なスケーリングをサポート
- ・ AJA Control Room と Adobe キャプチャープラグインの DNxHR コーデックをアップデート。DNxHR キャプチャーパフォーマンスを改善

修正点

v12.4.2

- ・ Thunderbolt をホットプラグした際にカーネルパニックが発生する問題を修正
- ・ ドライバとファームウェアがミスマッチの際にそれを自動で検出する firmware flash が正常に発生しない問題を修正
- ・ T-TAP を使用した際に Wirecast 7 がクラッシュする問題と AJA multichannel config が実行されない問題を修正

v12.4.1

- ・ AJA ドライバが原因で AJA ハードウェアのシリアルナンバーを正しく読み込めない問題を修正

v12.4.0

- ・ Premiere Pro で Mercury Playback Engine の設定が GPU 高速処理になっていない場合に 8-bit YUV 設定の再生が不正になる問題を修正

- ・ AJA デバイスが Mac OS でシステムオーディオデバイスとして選択されている場合に Premiere Pro の再生環境で AJA デバイスと Adobe デスクトップオーディオを切り替えると不安定な動作を引き起こす問題を修正
- ・ AJA ドライバのインストーラーから AJAUncompressedCodec.component を消去
- ・ Premiere Pro でトリム機能を使用するとビデオ出力がフリーズする問題を修正
- ・ オーディオハードウェアを使用する方法を変更
- ・ Mac OS 10.11 で Premiere Pro でのキャプチャー中にフリーズやクラッシュ（または両方）を引き起こす問題を修正
- ・ AJA Control Panel が 1080p ハイフレームレート 3G Level B のユーザー設定を保持できない問題を修正。以前は再起動した後に常に Dual Link 1.5G にリセットされていました。
- ・ AJA Transmit プラグインで buffer mode を minimum に設定しオーディオのみのファイルを Premiere Pro のソースモニターで再生するとオーディオが吃る問題を修正
- ・ After Effects から他のアプリケーションに切り替えても AJA ハードウェアを離さないレガシーな AJA After Effects プレビュープラグイン (Blithook) の問題を修正
- ・ Adobe After Effects のサポート方法を変更しました。以前は 2 つの異なるプラグインをインストールしていました。“Blithook”プラグインは古いレガシーなプラグインのためデフォルトではインストールされなくなりましたので、必要な場合はインストーラーのオプションから選択してください。Transmit プラグインはデフォルトのインストールオプションとしてインストールされます。詳しくは Adobe のプラグインマニュアルを参照してください。
- ・ AJA Control Room は QuickTime ファイル生成時に NCLC カラープロファイルを追加
- ・ AJA Control Room と Adobe キャプチャープラグインの DNxHR コーデックをアップデートしました。DNxHR のキャプチャーパフォーマンスを改善
- ・ AJA System Test が T-Tap の DMA スピードのテストに失敗する問題を修正
- ・ AJA ハードウェアが 25 または 50 fps モードの際に AJA Control Room と Premiere Pro のキャプチャープラグインに DV and DVCProHD コーデックが表示されなくなる問題を修正
- ・ Media Composer が 1080p 50/59.94/60 のプロジェクトを常に 3G SDI Level A モードとして AJA ハードウェアを切り替えてしまう問題を修正しました。以前はデュアルリンクと 3G SDI Level B は設定することが不可能でした。ユーザーは AJAコントロールパネルでこの設定を選択することができるようになり、Media Composer を起動する前に設定することで適用されます。
- ・ AJA Control Room で Batch キャプチャーが失敗する問題を修正

- ・ AJA Control Room で DNxHR の規則に合わせるために DNxHD の命名規則を変更
- ・ AJA Control Room で常に バッチキャプチャーで作成したファイルの オーディオが 16トラックになってしまう問題を修正
- ・ lo 4K が 10bit HDMI 入力を 8bit として扱ってしまう問題を修正
- ・ Premiere Pro で DV 圧縮を使用したキャプチャーの問題を修正
- ・ ホストコンピューターのスリープ後に lo 4K から不正なテストパターンが出力される問題を修正（要ファームウェアアップデート）
- ・ AJA Control Room で複数の DNxHD クリップをキャプチャーすると AJA Control Room がクラッシュする問題を修正
- ・ Mac と Windows のインストーラーはデフォルトでレガシーな AJA After Effects プレビュープラグインをインストールしないように変更されました。プラグインはインストーラーの中にはまだ含まれており、インストールするにはカスタムインストールでユーザーが選択する必要があります。この古いプラグインは伝送の性能が高速ではないので限定された状況で使用するべきです。
- ・ KONA 3G が SDI 入力 2 からの RP-188 タイムコードを正確に読み込めない問題を修正（要ファームウェアアップデート）
- ・ AJA Control Room の バッチキャプチャーでキャプチャーを開始した後にアウトポイントの値が変更されて表示される問題を修正。以前は設定したアウトポイントは正確に実行されていましたが、アウトポイントの値が見た目上だけ不正確でした。
- ・ Avid Media Composer の タイムラインの再生で開始のフレームがスキップされる可能性がある問題を修正
- ・ Avid Media Composer の スクラブ後の再生で最初のフレームが不正確なフレームであるかもしれない問題を修正
- ・ Avid Media Composer の ループ再生が原因で exception error を引き起こす問題を修正
- ・ Premiere Pro のビデオとオーディオのミリ秒のオフセットによりタイムラインの再生の開始時に数フレームのビデオをスキップする可能性がある問題を修正
- ・ AJA Control Room の VTR アウトポイントの表示が Batch キャプチャーの開始後に変更される見た目の問題を修正（キャプチャーされたファイルのアウトポイントは正常）
- ・ KONA LHe+ の AJA Control Panel で AES XLR がオーディオ入力ソースとして選択できない問題を修正（要ファームウェアアップデート）
- ・ lo 4K にて AJA Control Panel でのアナログオーディオの設定が正確に反映されない問題を修正

- ・ Adobe Premiere Pro で 720p フォーマットを元ファイルに正確なフレームでキャプチャーできるように修正
- ・ Adobe Premiere Pro のデバイスコントロールプラグインを端数（0.5 単位）のフレームオフセットが行えるように改善。端数のフレームオフセットは断続的な編集やキャプチャ時にフレーム未満でキャプチャーやテープ出力のオフセットを微調整するために使用することができます。
- ・ Adobe Premiere Pro で RP-188 タイムコードを正しくキャプチャーできるように修正
- ・ T-Tap と Io Express で Premiere Pro の 正しいビデオフォーマット設定が保持できない問題を修正
- ・ Io 4K で RGB の HDMI 入力が正しく動作しない問題を修正
- ・ AJA Control Room の インサート編集でオーディオの最初のフレームが挿入されない問題を修正
- ・ Adobe Photoshop で AJA インポートプラグインを使用してキャプチャーをした際に入力された画像のクロマレベルが低くなる問題を修正
- ・ 2 サンプルインターリーブ形式の VPIDデータが間違っている問題を修正
- ・ Io 4K と KONA 4 の 4K と UltraHD の HDMI 出力におけるバンディングを修正
- ・ Io 4K と KONA 4 で ダウンストリームキーヤーを使用した際に画像が歪む問題を修正
- ・ ビデオフォーマットを切り替えることで画像が誤って垂直方向にロックしてしまう問題を修正
- ・ Premiere Pro の再生設定におけるオーディオとビデオのオフセット設定を修正

このリリースでサポートされる製品

- | | |
|-----------------|--------------|
| ・ KONA IP | ・ Io 4K |
| ・ KONA 4 | ・ Io XT |
| ・ KONA 3G | ・ Io Express |
| ・ KONA LHi | ・ T-TAP |
| ・ KONA LHe Plus | |

既知の問題

ALL

- ・ KONA LHi はオーディオシステムを 1つしか持っていないため、キャプチャーや出力で同時に使用できるオーディオは 1系統のみに制限されます。同時に複数チャンネルの入力と出力に対応したアプリケーションでは、SDI 入力にエンベデッドされたオーディオが使用されます。入力と出力それぞれが一度に独立した状態で使用される場合（入力からのパススルー出力ではなく）のみ 1系統のオーディオチャンネルを使用することができます。
- ・ KONA や Io のデバイスを使用時、システムのスリープはすべきではありません。オペレーティングシステムの設定でスリープを無効にする必要があります。

Wirecast

- ・ Io 4K や KONA 4 のようなマルチチャンネルのデバイスで構成され、ライブのプログラム出力機能を使用する場合には始めに入力の設定を構成する必要があります。この場合、マスタークロック（NTSC もしくは PAL）をデバイスに設定することになります。そうでない場合、デバイスはデフォルトの 1080i 29.97 に設定され、PAL と NTSC のクロックの混合を引き起こす可能性があります。必ず Wirecast を起動する前に AJA Multi Channel Config で入力と出力の全てを設定してください。

Adobe Plug-Ins

- ・ シーケンスとハードウェアのフレームレート設定が異なると、適切なオーディオ出力が得られない場合があります。
 - 720p50/59.94/60 以外の 720p フォーマットで発生する可能性があります。
 - この制限を回避するには、Premiere Pro の再生設定で、AJA ビデオデバイスを「Match Control Panel」に設定します。その後、AJA コントロールパネルを使い、出力に対して 1080 フォーマットへのクロスコンバージョンを設定します。例えば、720p23.98 プロジェクトを使用する場合は、SDI 出力を選択して 1080PsF23.98 フォーマットを選択し設定します。
- ・ クラッシュキャプチャーにおいて、RS-422 タイムコードをキャプチャーすることは出来ません。RS-422 タイムコードに変えてエンベデッドタイムコードを使用する事を推奨します。
- ・ VFR にプルダウンが追加された場合、タイムコードは調整されません。
- ・ HD-SDI 経由のクラッシュキャプチャーおよびプリントにおいて Varicam フレームレートでの動作は可能ですが、インサート編集やイン・アウト点を指定してのキャプチャーやバッチキャプチャーは行えません。
- ・ パナソニック社製のデッキにインサート編集を掛ける際、正しく編集を行えない場合があります。この問題を回避するためには、メニュー項目 202 “ID SEL” が “OTHER” に設定されていることを確認してください。

- ・デッキ制御において 4 秒以下のプリロールは推奨しません。
- ・Premiere Pro のモニタ設定のデフォルトは”最初のフィールド”となっています。インターレースを正しく表示するには”両方のフィールド”を選択してください。
- ・Premiere Pro のキャプチャーウィンドウを開いた状態で、デッキのテープが DF から NDF に変更された場合、DF/NDF ステータスを正しく検知できない場合があります。この時、Premiere Pro のキャプチャーウィンドウに表示されるタイムコードは正しくない可能性があります。
 - 同じキャプチャーセッション中に DF と NDF のテープ混在がなければ、この問題はユーザーに影響しません。
 - ▶ 対処方法：テープチェンジ時に表示されるダイアログにてテープ名を与え、OK をクリックする前に新しいテープをスプールしてください。
 - ▶ 回避方法：キャプチャーウィンドウを一度閉じて、再度開きます。
- ・Panasonic D5 デッキを使用してキャプチャー/テープへ書き出しを行う際は、AJA Premiere Pro Device Control プラグインのタイムコードソース設定を LTC+VITC にしなければなりません。

Avid Open I/O Plug-ins

- ・AJA デバイスを”オーディオパンチンツール”で使用するためには、”キャプチャーツール”で AJA デバイスを選択している必要があります。
 1. キャプチャーツールを開く
 2. AJA KONA あるいは AJA Io などのビデオ入力を選択
 3. キャプチャーツールを閉じる
 4. オーディオパンチンツールを開く
 5. AJA KONA あるいは AJA Io などの入力デバイスを選択
- ・Open I/O Plug-ins がインストールされているタイムラインの不特定なループは、Avid アプリケーションの再生停止や、エラーメッセージの原因となる可能性があります。
- ・KONA 3, KONA 3G, Io XT でデュアルリンク RGB ソースをキャプチャーする場合、E/E されるデュアル SDI 出力は正しくない可能性があります。
- ・AJA ハードウェアはコントロールパネルを使用してゲンロックを 'Input' と 'Reference' で切り換えることができますが、Media Composer でキャプチャーを行う場合、この選択によってバッチキャプチャーが正しく行えない場合があります。この問題を回避するにはゲンロックを "Input" に設定します。
- ・アナログビデオ入力は Media Composer のキャプチャーツールに正しく検出されない場合があります。この問題は Media Composer の起動時にソースビデオを再生しておくことで回避できます。